



学部長のあいさつ

10月に理工学部長に就任いたしました豊田でございます。同窓会の皆様には日頃より理工学部の活動に対して多大なご支援を頂いておりますこと、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

18歳人口の減少がいよいよ現実のものとなり、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています。これに対応するため、大胆な大学改革が求められており、理工学部でも様々な取り組みを行っております。まず教育面では、理工学部と大学院博士前期課程の改組を2019年4月に行い、理工学の基礎力を身に付けた多様な人材を養成できるカリキュラムとしました。また、博士後期課程の改組に向けて現在取り組んでいるところです。これからも社会で活躍できる人材を供給し続けるためには優秀な受験生を確保することが喫緊の課題となりますので、推薦入試やAO入試などの特別入試枠を広げ多様な才能を持つ学生を受け入れる入試としました。研究面では、佐賀県と県内企業の皆様とともにオープンイノベーションに基づいた研究開発を行うための「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム (CIREn)」を立ち上げました。CIREnは「セイレン」と読ませており、幕末の科学技術の先進組織であった精錬方のマインドを現代に復興するという願いの下に名付けられています。その他にも、学部としての研究の柱を立てるとともに、それぞれの教員が自由闊達な発想でそれぞれの研究に取り組んでいます。国際交流の面では、国費留学生の優先配置を伴う大学院の特別プログラムが文科省より認められましたので、これを梃子にして留学生の増加や海外の大学との戦略的連携など国際化を推進していきたいと考えています。

理工学部は、すべてのステークホルダーの皆様から頼りにされる存在になることを目指しております。上記のような取り組みを実りあるものとするために、教員一人ひとりが活躍できる強い組織を作っていきたいと思っておりますので、今後とも引き続きご支援ならびにご指導ご鞭撻を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。



理工学部長
豊田 一彦 教授

お知らせ：佐賀大学では、2019年5月に学長選挙が行われ、2019年10月1日から兒玉浩明学長体制がスタートしました。理工学部長の渡 孝則氏が佐賀大学理事（企画・総務・財務担当）に就任されました。それに伴い、理工学部長選挙が行われ、豊田氏が佐賀大学理工学部長に就任されました。なお、兒玉浩明新学長は、佐賀大学理工学部化学科を1983年（S58）に卒業されており、佐賀大学出身の初めての学長です。新学長のあいさつは、佐賀大学同窓会会報『楠の葉』No.32に掲載されております。



時代のニーズと共に発展する理工学部2019

後藤 聡（副学部長：広報担当）

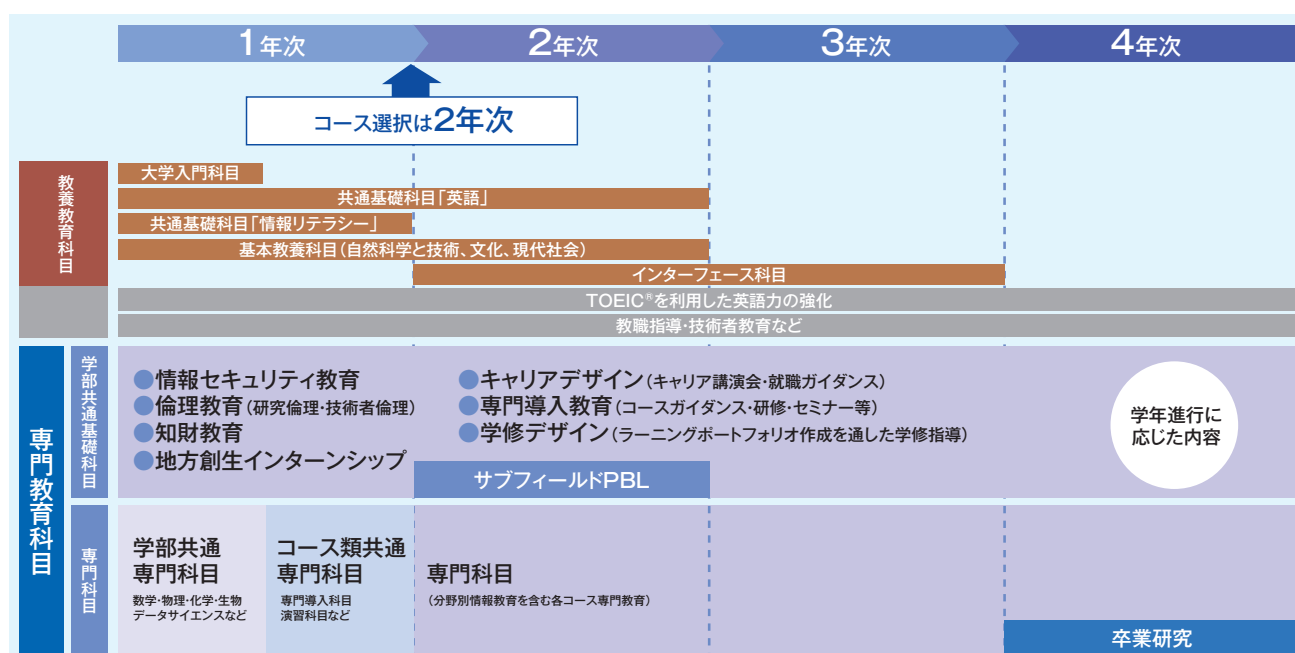
理工学部ORIGINAL PAGE
<https://www.se.saga-u.ac.jp>



【理工学部の教育】

佐賀大学理工学部は、2019年4月に理工学科1学科の12コースに生まれ変わりました。学年進行により段階的に専門分野を絞っていく仕組みにより、数学、物理、化学、生物といった基礎学問や情報セキュリティや知財、研究者倫理・技術者倫理といった理工学基礎力を身に付けさせ、展開力・理工学基礎力を強化し、広範な分野と理工学の融合を実現できる能力を養います。

カリキュラム



理工学科12コースの紹介

数理サイエンスコース 代数・幾何・解析などの数学の修得を基に、キャリアパスを想定した確率・統計を学んで、教職・情報技術・金融・保険などの分野での活躍をめざす。	知能情報システム工学コース 情報処理の基礎技術を確実にマスターし、その上に人工知能、データサイエンスなどのコンピュータを高度に利用する分野での活躍をめざす。	情報ネットワーク工学コース 情報処理の基礎技術を確実にマスターし、その上にネットワーク、ソフトウェアなどの高度基礎技術の開発とシステム実現での活躍をめざす。	生命化学コース 化学の基本となる無機化学、有機化学、物理化学、分析化学を学び、化学者として化学、製薬、食品などの分野での活躍をめざす。
応用化学コース 材料化学を核とし、化学と工業の融合を進め、材料開発や化学工学に強い化学技術者として有機・無機工業化学などの分野での活躍をめざす。	物理学コース 科学技術を支える物理学を広範囲に教育研究し、中学・高校の理科教育や宇宙利用、材料開発、情報技術など、社会の広い分野での活躍をめざす。	機械エネルギー工学コース 流体、熱、貝用エネルギーなどの有効利用を中心に学び、高度エネルギー利用技術に強い機械工学技術者として幅広い分野での活躍をめざす。	メカニカルデザインコース 様々な産業分野における開発・設計・生産とそれらのシステムで必要となる機械工学分野の専門知識を学び、モノづくりに強い技術者としての活躍をめざす。
電気エネルギー工学コース 電気エネルギーの発生・変換・利用などの基礎技術を身に付け、工業・医療・農業などの様々な産業分野で活躍できる電気技術者をめざす。	電子デバイス工学コース IoTを支える電子デバイス技術や情報通信を学び、ソフトウェアにも強いハードウェア技術者としてエレクトロニクスや情報通信分野での活躍をめざす。	都市基盤工学コース 安全・安心で豊かな地域社会の構築に貢献できる技術者として、都市基盤の整備・維持管理の分野での活躍をめざす。	建築環境デザインコース 建築・都市空間およびその周辺環境の整備・改善・保全に対してアイデアとリアリティに富む計画設計等ができる技術者として、地域創生への貢献をめざす。

【理工学部の研究】

●理工学部研究会

<https://www.se.saga-u.ac.jp/researchgroup.html>

理工学部では、社会の要請をとらえ、理工学部の特色を活かして、人類社会の発展と福祉に資する先端的研究を育み、あわせて教員相互の有機的なネットワークを構築して組織的な研究活動を活性化するとともに、理工学部の戦略的研究を育成することを目的として理工学部研究会を設置しています。

・コミュニティデザイン研究会

地域に根ざしたコミュニティの計画デザイン手法を実践的に明らかにします。

・ものづくり匠研究会

「ものづくり」の分野で「地域への貢献」「共同研究の推進」および、その役割を担う組織の構築・強化を目的とします。

・膝関節シミュレータ開発研究会

膝関節シミュレータを開発・考案し、得られたパラメータを変形性膝関節症の状態の評価に適用します。

【理工学部の国際交流】

●環境・エネルギー・健康科学グローバル教育プログラム

外国人留学生と日本人学生が共修し、環境、エネルギー及び健康に関する専門知識を学びながら研究能力を涵養し、県内企業の協力や協定校との交流により国際感覚を身に付け、日本国内及び世界で活躍できる人材を育成します。

●戦略的国際人材育成プログラム

アジア諸国から優秀な外国人を受け入れ、佐賀大学とアジアの大学や研究所等と国際交流協定にもとづいて実施されている共同研究や共同教育を強化し、佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させます。

●国際パートナーシップ教育プログラム

大学院におけるグローバル人材育成教育の一環として、理工学研究科では学術交流協定を結んでいる海外の大学との間で国際パートナーシップ教育プログラムを実施し、大学院生が英語で講義を受講する、あるいは英語で発表するなど国際コミュニケーション主体の教育を行なっています。

●その他の国際交流活動

学部交換留学生(SPACE-E)受入、研究留学生受入、国際共同研究の実施、大学間交流協定の締結

相手国：フランス ブルゴーニュ大学 リール大学、ベトナム カントー大学・ベトナム国家大学ホーチミン市校情報技術大学、インドネシア スラバヤ工科大学、中国 武漢大学、台湾 国立勤益科技大学、タイ カセサート大学など

【再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム（CIREn）】

<https://www.se.saga-u.ac.jp/CIREn.html>

<https://ciren.jp>

佐賀大学は理工学部が中心となり、佐賀県と共に「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム（Co-creative Innovation platform for Renewable Energy（略称CIREn：セイレン）」を2019年10月8日に設立しました。

CIREnは、「佐賀県再生可能エネルギー等先進県実現化構想」の実現に向け、オープンイノベーションを基軸に、産学官連携による再生可能エネルギー等の研究開発や市場開拓等を進めることで、佐賀県内の関連産業創出を加速させ、SDGs（Sustainable Development Goals）の目標「質の高い教育をみんなに」、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「働きがいも経済成長も」、及び「産業と技術確信の基盤をつくろう」の達成に貢献することを目的とします。2019年度は9つの研究分科会を設置しています。



設立総会の議長を務める豊田学部長

【理工学部学生国際交流活動組織 STEPs】

<https://www.se.saga-u.ac.jp/intro.html#ttl09>

STEPsはStudent Association of Excellent and Progressive Spiritの略で、佐賀大学理工学部長表彰を授与された成績優秀者で構成される学部公認の学生による国際交流活動組織です。STEPsは、以下の活動を行っています。

1. 海外の大学や研究所等での研修（年1回）
2. 学長への海外研究報告（年1回）
3. 外国人留学生との交流会（年4～5回程度）
4. English Timeにおける各テーマについて英語のみでの発表会（年10回以上）
5. 理工学部を訪問される外国からの教員や学生の応対（年数回程度）



台湾国立台北科技大学での研修の様子

菱実会役員の自己紹介

菱実会の活動を

もっと知ってもらいたい

岩部 敦也 (電気・H2入)

2017年より菱実会の理事を務めております、平成2年電気工学科入学の岩部敦也です。現在、佐賀市内に本社を置く株式会社・戸上電機製作所に勤務しており、電力会社殿の配電線に使用する「高圧開閉器」の開発に従事しています。当社は佐賀大学出身、特に理工学部からの社員が多く在籍していますが、菱実会の存在自体を知らない方がほとんどというのが現状です。まずは身の回りの同窓生を巻き込みつつ、菱実会と母校の発展に向け微力ながら尽力させて頂きたいと考えております。今後とも会員の皆さま方のご指導、ご鞭撻、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2019年度菱実会役員名簿

(2019年9月7日)

	氏 名	学科・入学年	勤 務 先
会 長	穂屋下 茂	機械・S45	
副会長	中島 道夫	化学・S43	
副会長	島 公二武	機械・S46	
副会長	山口 智啓	生機・S48	
副会長	小玉 純士	建設・S57	ダン技術設計(株)
理 事	宮地 幸夫	工化・S46	
理 事	樋口 幸弘	土木・S49	松尾建設(株)
理 事	米満 潔	化学・S56	佐賀大学全学教育機構
理 事	高崎 光浩	化学・S56	佐賀大学全学教育機構
理 事	池上 康之	生機・S57	海洋エネルギー研究センター
理 事	田中 高行	電子・S57	佐賀大学理工学部
理 事	津留 保生	電気・S61	津留公認会計士事務所
理 事	田中 稲穂	化学・S61	(株)AIT物産
理 事	岩部 敦也	電気・H2	(株)戸上電機製作所
理 事	古川 裕紀	生機・H4	佐賀県議会
理 事	淵上貴由樹	都市・H12	佐賀大学理工学部
監 事	椿 忠彦	物理・S48	佐賀龍谷中学校・高等学校
監 事	深井 澄夫	電子・S49	佐賀大学理工学部
監 事	磯野 健一	工化・S59	佐賀大学理工学部
顧 問	秋永 正幸	機械・S41	

母校や故郷の発展に尽くしたい

古川 裕紀 (生機・H4入)

同窓会役員？と不思議な感覚を覚えつつも、これも何かの御縁かなと思い、ご迷惑をおかけした母校へ少しでもご恩返しができれば、との思いで同窓会に関わっております。少子化という学生の減少が懸念される現代社会において、佐賀大学が地域にとってかけがえのない大学としてますます発展していくために何かしら協力できることがあればとの思いです。島 公二武先輩らとは、旧制佐賀高等学校 不知火寮寮歌「南に遠く」の巻頭言や佐賀大学学生歌「楠の葉の」の歌や踊りの練習に勤しんでいます。支部や地区同窓会の懇親会では全員で唄い、踊り、同窓会を盛り上げています。佐賀青春寮歌祭にも出場し、他大学同窓会とも交流を行っています。

略歴：技術系企業にて、プレスや輪転機の防振、美術品やサーバーラックの免震等の開発設計に携わりながら、東京大学生産技術研究所へ出向。研究員としてアクティブ免震装置をテーマとして研究に従事。その研究成果をもとに企業と提携し、半導体製造装置への実装に成功。免震業界に携わるようになって土木業界や建設業界、原子力業界とも交流するなかで「人々の生命・財産」といった『公共』という意識が芽生える。佐賀から離れて暮らすなかで故郷に対する思いを強くする。その後、帰郷し政治の世界へ。神埼市議会議員（一期）を経て佐賀県議会議員（一期目）。



巻頭言の練習成果を披露

左：島 公二武 右：古川 裕紀

佐賀大学同窓会事務局

E-mail dousoukai@sadai.jp

TEL：(0952)23-1253 FAX：(0952)25-5700